

## 令和元年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

### 1 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成31年4月18日（木）
- (2) 調査の対象  
 国・公・私立学校小学校6年生（特別支援学校含む） 全児童  
 国・公・私立学校中学校3年生（特別支援学校含む） 全生徒  
 ＊特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。
- (3) 浜田市での調査対象児童生徒数 ・小学校 396名 ・中学校 418名
- (4) 調査の内容  
 ① 教科に関する調査 小6：国語・算数 中3：国語・数学・英語（初実施、3年に1度）  
 ② 質問紙調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

### 2 各教科の平均正答率

※今年度から、A問題・B問題が統合されたため、〈昨年度比較〉はB問題との比較

#### (1) 小 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県) 〈昨年〉	差(市一國) 〈昨年〉	差(県一國) 〈昨年〉
国 語	62	62	63.8	0 〈-2.0〉	-1.8 〈-1.7〉	-1.8 〈0.3〉
算 数	65	65	66.6	0 〈-3.0〉	-1.6 〈-5.5〉	-1.6 〈-2.5〉

#### (2) 中 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県) 〈昨年〉	差(市一國) 〈昨年〉	差(県一國) 〈昨年〉
国 語	69.0	73.0	72.8	-4.0 〈-5.0〉	-3.8 〈-5.2〉	0.2 〈-0.2〉
数 学	52.0	57.0	59.8	-5.0 〈-5.0〉	-7.8 〈-6.9〉	-2.8 〈-1.9〉
英 語	49.0	53.0	56.0	-4.0	-7.0	-3.0

### 3 島根県の結果の概要

- 小学6年算数の平均正答率は65%（全国平均66.6%）で、全国平均との差は1.6P。分野別では全領域のうち3領域で下回り、「量と測定」が振るわなかった（全国より-2.9P）。問題形式別では、記述は2.4P下回った。
  - ・高正答率者が全国と比較して少ない。棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることや、台形について理解することはよくできている。一方、示された計算の仕方を解釈し、減法の場面を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することや、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。
- 中学3年数学は57%（全国平均59.8%）で、2.8P下回った。全4領域全てで全国以下となり、特に「関数」は3.6P開いた。問題形式別では、記述で3.0P下回った。
  - ・高正答率者が全国と比較して少ない。事象を数的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- 小学6年国語は、62%（全国平均63.8%）で1.8P下回り、特に、「伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項」では、3.7P下回った。
  - ・高正答率者が全国と比較して少ない。必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことや、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることはよくできている。一方、漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うことや、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。
- 中学3年の国語は、73%（全国平均72.8%）で平均並みだった。
  - ・全国とほぼ同じ傾向を示しているが、全問正答者が少ない。「話すこと・聞くこと」では、全国より1.3P上回っている。文章の構造を捉え、問われていることがどこに書かれているかを理解することに課題がある。
- 今回初めて実施した英語は53%（全国平均56%）。参考のため公開しない「話す」を除く3領域で全国以下となり、中でも「書く」は4.9Pも下回った。
  - ・高正答率者が全国と比較して少なく、低～中正答率者が多い。短い英文の情報を正確に聞き取ることはおおむねできている。一方、与えられたテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書くことや、聞いて把握した内容について、自分の考えを書くという複数の領域を統合して活用することに課題がある。
- 児童生徒質問調査では、小学校「算数の勉強は好きだ」とする回答が62.6%と過去5年で最も高かった。「今住んでいる地域の行事に参加している」とする回答は76.3%と高く、全国（68%）を8.3P上回っている。一方、一日あたり1時間以上勉強するとした中学生は59.4%にとどまり、全国平均を10.4P下回った。
- 学校質問調査から、全国との比較において大きな差異が見られる項目をあげる。
  - ・「算数の指導として、発展的な学習を行った」は58.8%で、全国（72.8%）より-14P。
  - ・「国語の指導として、発展的な学習を行った」は49.2%で、全国（62.8%）より-13.2P。
  - ・「英語の指導として、発展的な学習を行った」は57.8%で、全国（75.4%）より-17.6P。
  - ・「数学の指導として、発展的な学習を行った」は58.9%で、全国（76.5%）より-17.6P。

#### 4 浜田市の結果

##### (1) 各教科の分類別集計結果の概要

※ ○：市が県を2ポイント以上、上回るもの

－：市と県の差が2ポイント未満のもの

△：市が県を2ポイント以上、下回るもの

##### ① 小学校国語

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		3	57.7	57.1	0.6	
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	3	70.0	71.5	-1.5	－
書く能力	書くこと	3	56.4	55.4	1.0	－
読む能力	読むこと	3	82.2	81.7	0.5	－
言語事項	伝統的な言語文化	5	48.7	49.8	-1.1	－

##### ② 小学校算数

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	7	62.6	61.7	1.1	－
量と測定	3	46.5	50.0	-3.5	△
図形	2	73.9	77.0	-3.1	△
数量関係	7	66.7	66.8	-0.1	－

##### ③ 中学校国語

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		3	72.5	77.8	-5.3	△
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	3	67.6	71.5	-3.9	△
書く能力	書くこと	2	78.5	83.0	-4.5	△
読む能力	読むこと	3	68.3	72.4	-4.1	△
言語事項	言語事項	2	63.5	66.9	-3.4	△

④ 中学校数学

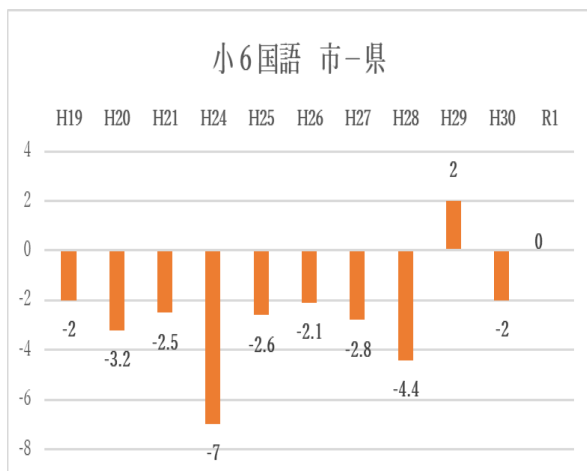
学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	5	55.6	61.3	-5.7	△
図形	4	65.1	71.2	-6.1	△
関数	3	30.5	37.2	-6.7	△
資料の活用	4	51.8	53.9	-2.1	△

⑤ 中学校英語

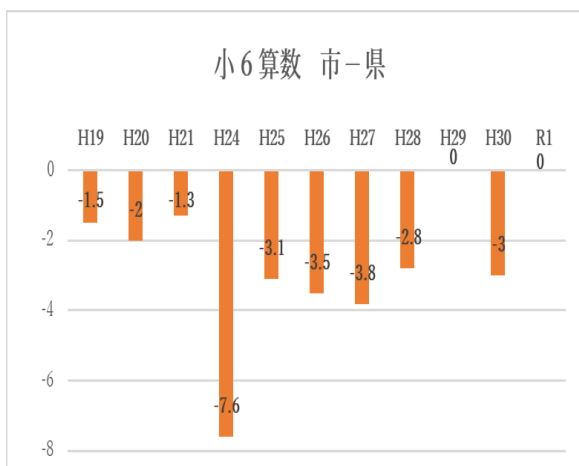
学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
聞くこと	7	62.0	64.6	-2.6	△
読むこと	6	49.9	54.6	-4.7	△
書くこと	8	36.4	40.9	-4.5	△

(2) 平均正答率の県との差の推移

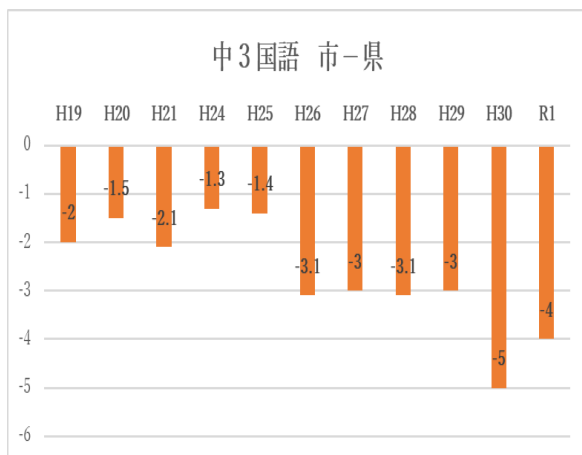
小6国語



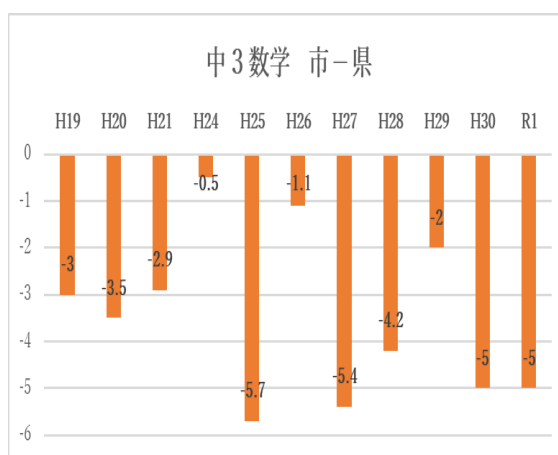
小6算数



中3国語



中3数学



### (3) 教科に関する結果の概要

- 国語は、小学校62%（県62%）、中学校69%（県73%）。小学校は、「書くこと」「読むこと」が上回ったが、他の観点では下回った。中学校は、全ての観点で4P程度下回った。
- 算数・数学は、小学校算数65%（県65%）、中学校数学は52.0%（県57.0%）。小学校は、「数と計算」は上回ったが、他の領域は下回った。中学校数学は、全ての領域で下回った。
- 平均正答率の推移を見てみると、小学校では、国語、算数ともに県平均と同等になり上向きとなってきた。  
中学校では、国語、数学については、横ばい。数学の全ての領域で5P～6P下回っている。  
英語は、「読むこと」「書くこと」で、4P以上下回った。
- 問題形式別では記述については、「求め方を説明する」とか、「理由を記述する」、「自分の考えを書く」等の、「資料等の情報から理由や自分の考えを説明したり、記述したりする」ことに課題が見られる。具体的には以下の通りである。
  - ・小学校・・・国語では、57.7%（県57.1%）。算数では、42.6%（県45%）。  
国語は、県・国の正答率と同率であるものの、算数では、以下の問題において「正答率が低い」傾向がある。
    - △示された図形の面積の求め方の説明を記述する。
    - △2つの棒グラフから、一人当たりの水の資料量についてわかることを選び、選んだ理由を記述する。
  - ・中学校・・・国語では、72.5%（県77.8%）。数学では、39.3%（県44.1%）。  
特に、以下の問題において「正答率が低い」あるいは「無回答率が高い」傾向がある。
    - 〈国語〉
      - △「趣旨＝自分の考えをもつ」：話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていな  
いこと」について、自分の考えを書く。
      - △「趣旨＝伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」：広報誌の一部にある情報を用  
いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書く。
    - 〈数学〉
      - △「趣旨＝三角形の合同条件を理解している」：照明で用いられている三角形の合同条件を  
書く。
      - △「趣旨＝資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」：「1  
日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒスト  
グラムの特徴を基に説明する。
      - △「趣旨＝事柄が成り立つ理由を説明する」：連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍  
になることの説明を完成する。
    - 〈英語〉
      - △資料を読んでその問題に対する自分の考えを書く。
      - △事柄を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く。
- 知識・技能の定着に向けた取組を今まで通り継続していくと共に、思考力・判断力・表現力（例えば、資料等の情報から理由や自分の考えを説明したり、記述したりする力）や、学びに向かう力等の育成をめざす授業改善に地道に取り組んでいく必要がある。

#### (4) 児童生徒の意識調査から

- 「自分には良いところがあると思う」と感じている児童生徒の割合は、小学校では83.3%（H30年度：69%）で増加し、全国（81.2%）よりも上回ってきた。  
中学校でも75.3%（H30年度：77.1%）であり、全国（74.1%）を上回った。  
改善に向かっていると捉えられる。
- 家庭学習時間については、「1日あたり1時間以上家庭学習をする」児童生徒の割合は、小学校では68.2%（H30年度：57.1%）であり、全国（66.1%）よりも上回ってきた。  
中学校では、57.9%（H30年度：55.8%）であり、まだ全国（69.8%）より下回っており、家庭と連携し継続的な取組が必要である。
- メディア接触については、項目「2時間以上テレビゲームをする子どもの割合」がないため、11月の浜田市アンケートにより状況を把握する。

#### (5) 学校質問紙（校長の自己評価）から

全国との比較において大きな差異が見られる項目をあげる。（数字は、「よくしている+どちらかといえばしている」の割合）

##### ○まず、よくできていると認識された項目

「算数の指導として、補充的な学習の指導を行った」は100%。全国96.5%。

「特別支援教育について理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導の工夫を行った」は100%。全国は95.1%。

→ 手厚い指導が行われていると考えられる。

##### △次に、大きく不足していると認識された項目

〈小学校〉

- 「算数の指導として、発展的な学習を行った」は50.1%で、全国（72.8%）より-22.7P。
- 「国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」は62.8%で、全国（88.2%）より-25.4P。
- 「国語の指導として、書く習慣を付ける指導を行った」は68.8%で、全国（92.8%）より-24P。

〈中学校〉

- 「英語の指導として、発展的な学習を行った」は66.7%で（県57.8%）、全国（75.4%）より-8.7P。
- 「数学の指導として、発展的な学習を行った」は77.8%で（県58.9%）、全国76.5%より上。
- 「生徒は、熱意をもって勉強していると思う」は55.5%で、全国（89.3）より-33.8P。
- 「生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」は55.5%で、全国（94.1）より-38.6P。
- 「生徒は、礼儀正しいと思う」は55.5%で、全国（93.5）より-38P。
- 「生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う」は44.4%で、全国（82.2）より-37.8P。

→ 以上のことから、「発展的な学習」の不足と、中学校においては、「安心して落ち着いた学習環境、学級づくり」や「学習の意味の納得や理解」、「授業改善」等の課題が見えてくる。

## 5 今後について

### (1) 取組の方向性

#### ① 「知識・技能」の確かな定着の取組の継続

小学校においては向上が見られるものの、中学校ではまだ差がある。従って、各校が、基礎的学力育成のために行っている取組（基礎学力テスト、書き取り会、計算会、家庭学習の工夫、家庭学習の定着、配信学習プリントの活用、指導・支援が必要な児童生徒への指導の時間の確保等）は、今後も継続して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かなものとしていく。

#### ② 授業改善、「思考力・判断力・表現力」「活用する力」の育成

記述問題等で求められている「思考力・判断力・表現力（例えば、資料等の情報から理由や自分の考えを説明したり、記述したりする力）」や、「学びに向かう力」等の育成については、更なる指導改善が必要である。B問題対応や活用力育成のために、学校図書館活用教育等で行ってきた情報センターとしての図書館の機能を活用した学習や、各学校で進めている、「主体的で対話的で深い学び」への授業改善や、活用力を意識した授業づくり（B型問題を授業に生かす等）の取組を継続していくことが一層求められる。

#### ③ 「発展的な学習の指導」、「学習の意義の指導（キャリア教育）」「学級経営」の充実

また、今回の学校質問調査から見えてきた課題の対応として、次の点の改善に向けて、各学校や市教育研究会の部会等での研究取組が考えられる。

補充的な指導や特別支援教育の理解の上に、児童生徒の特性に応じた指導の工夫は充実してきている。一方、「発展的な学習」の不足が明らかである。そのことが、高正答率者が全国に比べて低い要因であると考えられる。「発展的な学習」の指導を工夫、実施し、学びに向かおうとする児童生徒の知的好奇心を刺激し一層伸ばしていくことが大切である。

また、中学校においては、更なる「授業改善」はもちろんであるが、「落ち着いて安心して学習に向かえる環境・学級づくり」や「学習の意義の丁寧な説明」等の確実な積み重ねが重要となる。この点は、「主体的に学ぶ児童生徒」の育成にも大きく関わるところで、小中学校が連携すべき最も重要なところであり、キャリア教育の一環として推進していく必要がある。

各学校が、①「チーム学校として組織的に取り組むこと」、②「授業改善に取り組むこと」。

大きな視点として、『めあてと振り返り』の質的向上（実施しているという意識は高まっている）をめざし、「めあての共有」「めあてにかえった確かな振り返りをやり切ること」を求めている。

また、各学校で「働き方改革」に取り組み教職員の意識改革を進めるための支援や、授業改善のための時間や児童生徒に関わる時間を確保するためにも、行政としても抜本的な方針が必要である。「統合型校務支援システム」等の教育の情報化やICT機器の導入計画を明確にし、業務改善を進め、校務の効率化とともに、教育の質の向上を目指したい。

そして、「当たり前のことが当たり前に丁寧に積み重ねていく」ことができるよう、学校も保護者も地域もが連携して取り組むことを求めている。

### (2) 具体的な取組

#### ① 「知識・技能」（基礎的・基本的事項等）の定着を図るための取組の継続

ア 各学校での基礎的・基本的事項定着の取組を継続する

- ・「めあてと振り返り」＝目標・成果が明確な連続した授業づくり
- ・学習プリント配信システムの活用
- ・家庭学習の取組
- ・基礎学力定着のための取組

イ 中学校区ごとの小中連携教育での取組

- ・キャリア教育の推進（キャリア・パスポートの活用） ・学習の意義の理解
- ・家庭学習の定着の一層の徹底 ・一貫した学習規律の確立
- ・生活習慣（ネットとの適切なつきあい方等）の見直し

② 授業改善に向けての取組 → 主体的・対応的で深い学びへの転換をめざし

ア 各学校での授業改善、学級経営等に向けての取組への支援

- ・本市の取組の良さ・価値付けをしたり、他の取組例の紹介をしたり、同じ方向で継続した取組を支援（訪問指導も含む）することで、更なる質の向上を図る。
- ・学級経営や学年経営を学校組織として取り組めるよう指導・支援に努める。
- ・「発展的な学習」の指導の工夫について指導・支援に努める。

イ 学校図書館教育を活用し、すべての教科を通して（国語、算数にとらわれることなく）、課題解決的、教科横断的な指導を行うことができるよう支援

- ・学校図書館活用教育研究指定校の設定、公開授業研究会や研修会への参加を呼びかける。
- ・教科横断的な学習を行うためのカリキュラムの見直しを求める。

ウ 「主体的・対話的で深い学び」に関わる研修会の実施・参加喚起、情報提供

- ・協調学習研究指定校の設定、公開授業研究会や研修会への参加を呼びかける。また、情報提供に努める。

今年度、協調学習研修会を、8月に「管理職対象」「一般教員対象」に実施し理解を広める。

- ・算数・数学研究指定校（石見小、第二中）の設定によりアドバイザー継続指導と公開授業研究会への参加を呼びかける。また、情報提供に努める。

エ スーパーティーチャー示範授業研修

- ・国語、算数等の授業を元に、授業改善に向けての研修を継続。教科指導のみならず「校内研修（チーム学校として）」の在り方等の研修も行い、各学校の校内研修の支援とする。
- ・今年度、7月に「国語」「算数」を窓口小学校会場で実施。8月に「道徳」を窓口中学校会場で実施。

オ 新学習指導要領の完全実施に対応

- ・小学校外国語活動、外国語教科化に向けての準備。学校訪問指導や研修を継続。
- ・小学校プログラミング教育導入の準備。浜田市全小学校で共通に取り組む「ミニマムスタンダード」となる「年間指導計画」を作成。プログラミングを体験できる教材の購入と研修。
- ・キャリア教育の一層の推進のための支援。小中学校に導入される「キャリア・パスポート」についての理解を深める研修。県委託事業「キャリア・パスポートの活用・研究事業」の研究校（原井小、第一中）の実践成果を市内の小中学校に提供していく。
- ・新指導要録の提供。文部科学省が示した基本型（成績一覧表とリンク版）を電子データで現場に提供する。